

〔土佐日記〕廿七日○承平四月大津より浦戸をさしてこぎいづ○中廿八日浦よりこぎ出て大みなどをおふ○中十一日○承平五月あかつきに舟を出して室津をおふ

〔和漢名數地理〕日本三津
博多津ハカタ前前

〔和漢三才圖會八十〕博多ハカタ

在那珂郡往古唐船著岸湊也

袖湊ソノミナト 在博多中昔此處有入海唐船出入中古入于平戸今入長崎故唯有名耳

〔筑前國續風土記三〕博多博多一博多屬那珂郡 日本後紀曰○中新羅人辛波古智等二十六人漂著筑前

國博多津略 是博多の名國史に見えたる始なり其時すでに博多津の號あり其初はいつの頃より立けん不知今案に博多は古來唐土船の著し所にて太宰府に近ければ其間上代太宰府

を置れしより博多町も立けるならん續日本後紀には仁明天皇の御宇新羅の人筑前大津に來るといへり大津は博多をさしていへり○中僧萬里が梅庵集送超公然叟歸省詩序曰超公然叟

石城人其境有鳥津有十里松註曰石城即筑前博多なり有鳥津又號冷泉津といへり唐土の書には博多を覇家臺或八角島など書り是は別に名付たるにあらず博多の音を聞て如斯書るなり

海東諸國記にも博多或冷泉津と稱し又石城府とも云よし見えたり日本に上世より異國船の來りつどひし所にて太宰府に近ければ往古より繁榮の地なる事むべなり○中げにも此博多

津は往古唐土船のつどひし所にて我日本の國々よりも各其土物を載て爰に聚り民軒を並て富人門をつらね肆には萬の財多く民生日用の食貨乏しからず且古寺名利又多し誠に四方輻

湊の地にして天府の邑といひつべし此所南北の中程に古は東西に通れる入海有て袖の湊と號せり是唐船の入し湊なり